

なす品種「あのみりのり」に適した仕立方法と側枝の剪定方法

1. 試験のねらい

(独) 野菜茶業研究所で開発した単為結果性なす「あのみりのり」は、ホルモン処理をしなくても果実が着果する省力的な品種である。しかし、品種特性として側枝の伸長が緩慢なため収量性が低いことが課題である。そこで、あのみりのりの高品質・多収生産技術を確立するため、適切な仕立方法および側枝の剪定方法を検討する。

2. 試験方法

(1) あのみのに適した台木品種の選定

台木品種として、トナシム、緋脚、カレヘン、アカナス（対照）の4品種を、穂木の参考として式部（台木：アカナス）を供試した。播種はトナシム、カレヘンを平成19年10月19日、アカナス（対照）を11月16日に、緋脚、あのみのに、式部を11月19日に行った。接ぎ木は本葉2枚を目安に12月19日に行った。平成20年2月11日に畝間200cm、株間30cmで定植し、V字2本仕立てとし11月13日まで収量および品質調査を行った。

(2) あのみのに適した仕立て方法および側枝の剪定方法の検討

仕立方法として、一文字およびV字の2処理と、側枝の剪定方法として、側枝2果どり1芽残し（2-1）、側枝1果どり2芽残し（1-2）、側枝1果どり1芽残し（慣行）の3処理を組み合わせた6処理区を設けた。播種はトナシムが平成20年11月3日、穂木あのみのを11月19日に行った。接ぎ木は本葉2本を目安に12月18日に行った。平成21年3月3日に畝間200cm、株間は一文字仕立ては60cm、V字仕立ては30cmで定植し、11月9日まで収量および品質調査を行った。

(3) 一文字仕立てにおけるあのみのに適した主枝本数の検討

一文字仕立ての主枝本数を2、3、4本の3水準とし、対照のV字仕立て主枝2本処理を加えた4処理区を設けた。播種はトナシムを平成21年10月9日、穂木あのみのを10月20日に行った。接ぎ木は本葉2枚を目安に11月27日に行った。平成22年2月22日に畝間180cm、株間60cm、対照区は畝間180cm、株間30cmで定植し、8月14日まで収量および品質調査を行った。

3. 試験結果および考察

(1) 台木品種別の可販果収量はトナシムが最も多かった。また、トナシムでは終始安定した収量を得られたが健全果率がやや低かった。緋脚では7月以降の収量が低く、カレヘンでは4～6月の収量が低かった。以上のことから、あのみのに適する台木品種はトナシムと判断した（表-1、図-1）。

(2) 一文字仕立ては従来のV字仕立てに比べ、可販果収量が2割程度増収した。また、総収量、可販果収量、健全果の割合は1-2区が慣行に比べ同等かやや優れるが、作業労働時間では1-2区がやや多いため、慣行の側枝1果どり1芽残しが適すると考えられた（表-2、3）。

(3) あのみのに一文字仕立てにおける可販果収量は、4本区が対照に比べ4割程度増収した。また、可販果率や健全果の割合は同程度であった（表-4）。

4. 成果の要約

あのみのは台木にトナシムを用いて、一文字仕立てにし、主枝本数を4本にすることで、収量の向上が図れる。

（担当者 園芸技術部 野菜研究室 奥野祐子、松本佳浩*）

※現下都賀農業振興事務所

表-1 台木品種別の収量および品質割合

台木品種名	総収量 (kg/株)	可販果収量		一果 重 (g)	可販 果率 (%)	品質割合 (%)							
		果数 (個/株)	果重 (kg/株)			健全	曲り 首細	スレ キズ	ガク 割れ	着色 不良	へた	花落	非販
トナシム	8.4	85	7.8	92	93	59	13	4	6	4	1	6	7
緋脚	6.4	64	6.0	94	94	62	11	3	6	4	1	7	6
カレヘン	6.8	70	6.5	93	96	67	13	2	4	4	1	4	4
アカナス (対照)	6.4	68	6.1	89	94	66	14	3	3	1	1	5	6
式部/アカナス (参考)	8.1	93	7.9	84	97	56	9	4	15	6	3	4	3

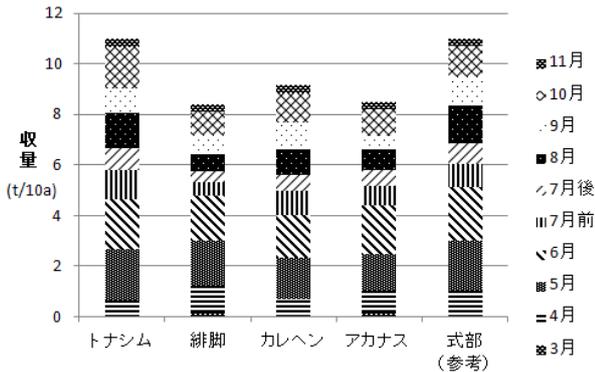


図-1 台木品種別の月別可販果収量

表-2 仕立て方法の違いによる作業労働時間^a

処理内容		収穫 (分)	剪定 (分)	合計 (分)
仕立方法	側枝剪定方法			
一文字	2-1	114	251	365
	1-2	113	285	398
	慣行	126	251	377
V字	2-1	100	280	380
	1-2	122	281	403
	慣行	130	256	386

注. 1週間当たりの作業労働時間を10a換算した。

表-3 仕立方法の違いが収量および品質に及ぼす影響

仕立方法	側枝剪 定方法	総収 量 (kg/株)	可販果収量		可販 果率 (%)	品質割合 (%)							
			果数 (個/株)	果重 (kg/株)		健全	曲り	スレ キズ	ガク 割れ	着色 不良	花落	副花	非販
一文字	2-1	9.1	80	7.0	94	48	18	3	1	3	3	12	6
	1-2	10.1	88	7.7	93	57	19	2	1	2	2	12	8
	慣行	9.8	87	7.5	92	53	18	4	1	4	2	12	8
	平均	9.7	85	7.4	93	53	18	3	1	3	2	12	7
V字	2-1	8.0	70	6.2	94	51	21	4	0	4	2	14	6
	1-2	7.7	67	5.7	91	48	21	3	0	3	2	13	9
	慣行	7.6	72	5.8	94	57	21	3	0	2	2	12	6
	平均	7.8	70	5.9	93	52	21	3	0	3	2	13	7

表-4 主枝本数の違いが収量および品質に及ぼす影響

処 理	総収量 (kg/株)	可販果収量		可販 果率 (%)	品質割合 (%)							
		果数 (個/株)	果重 (kg/株)		健全	曲り 首細	スレ キズ	ガク 割れ	着色 不良	へた	花落	非販
2本	4.3	43	4.1	95	33	25	4	4	5	1	23	5
3本	4.7	47	4.4	93	35	23	4	4	7	1	19	7
4本	5.1	52	4.7	93	32	23	5	4	9	0	17	7
対照	3.7	36	3.4	91	33	26	6	3	5	0	18	9